



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 41

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 41. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 41: 39-42

ISSUE DATE:

1956-02-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186833>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會
水族館 月 報

No. 41

1956. 1月(2月3日)
(9531号)

録 事

昨年12月28日付官報(581頁所載)において本會の経営する「京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館」は隣接の「番所山植物園」と共に博物館法第29条の規定に基づく博物館に相当する施設として文部大臣により正式に認可された。よつて博物館法に規定する種々の特典が付与されたわけであるが、これに伴ない、とりあえず内海・時岡の両委員は博物館法施行規則に従つて学藝員の資格を得るために、1月10日無試験認定を申請した。

正式に指定をうけたからには、その思沢にこたえる為にも、更に水族館及び博物館の設備内容を充実に、特別行事をも計画する等、社会教育施設としての実を挙げるよう努力しなければならぬことを痛感する。そのために大学や町当局の援助は大いに歓迎するところである。

1月7日 京都大学理学部長 芦田譲治教授が宮地會長・生駒監事の案内によつて来白。実験所及び水族館を視察された。各委員より博物館の改築、買収土地における職員宿舍の建設促進方を陳情する等あつて、翌8日帰学の前に南・峰尾・岩城・時岡・内海の各委員も白良荘に会して昼食を共にし、種々懇談した。

水族館道路の問題解決を機会に、20日内海委員は芝田・榎本兩氏と夕食を共にし、今後の円満な協力を誓った。なお、正門前の標示板設置後は観光客や業務用車輛は幸に通行規則を勵行しているように思われるが、この状態が継続されることが希望される。入口に新設する予定のアーチは目下設計依頼中である。

29日午後4時より時岡委員の米國留学を送るお茶の会を催した。同氏は31日全職員や近隣知人の盛大な見送りの下に、名残りを惜しみつつ白浜を後にした。

29日、左海館員には初の男児に恵まれた。

業務概況

◎1月の入場者数

区分	水族館 発売数		明光バス 発売数		合 計	
	本月分計	累計	本月分計	累計	本月分計	累計
大人	5959	59596	14781	121068	20740	180664
小人	470	4726	307	2671	777	7397
団体	4394	83039	—	—	4394	83039
合計	10823	147361	15088	123739	25911	271100
入場者					21	1570

◎1月の事業収入

観覧券売上金	495,892	(黒 計) 4,931,186
魚類拂下	—	5,670
諸 収 入	—	870
12月31日の繰越し	347,933	
計	843,825	4,937,726

◎1月の支出

水族館経費

費 目	金 額	黒 計	備 考
人件費	61,136	645,992	
合計	—	440	
備品費	—	150,960	
消耗料費	2020	9,5744	
事業費	36,680	395,359	
維持費	43,436	202,061	
其他諸経費	36,405	236,519	
積立金	84,847	842,339	
合計	264,524	2,569,414	

実験所経費

費 目	金 額	黒 計	備 考
研究費	—	93,000	
奨学金	5,000	35,000	
備品費	—	660,015	
消耗料費	—	14,500	
刊行費	—	329,576	
役務費	—	10,7055	
合計	5,000	1,239,146	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	5,300	52,180	
消耗費	—	9,393	
備品費	—	12,320	
合計	5,300	73,893	

臨時部

項目	金額	累計	備考
合計	—	568,705	

支出合計

水族館経費	264,524	(累計) 2,569,414
実験所経費	5,000	1,239,146
博物館経費	5,300	73,893
臨時部	—	568,705
計	274,824	4,451,158

1月末現在高 569,001

支出累計 4,451,158

◎前年度との比較

	1955	1956	増減
入場者数	21735	25911	+ 4176
売上金	414,696	495,892	+ 81,196
支出金	187,194	274,824	+ 87,630

水族館記事

- ◎前号に報じたヘリシロウツボは5日死亡、キ7チウツボも寒冷のためか餌つき悪く、次々に死亡して、現在3匹が残っている。
- ◎12日、美しいツバクロエイ(体長37cm 尾長100cm)が入ったが、惜しくも15日死亡した。
- ◎13日、昨年の夏以来、元気におおいでいたフマノミは水温が下がってきたため、遂に死亡した。しかしその美姿は、近刊の保育社編「原色熱帯魚図鑑」の中に収められて、永久的に残されることとなった。
- ◎22日ハマチ 7匹を入れたが、4匹が死亡した。
- ◎23日500枚余りのニシキエビ1匹が持ちこまれたが、触角が半は欠けているのが惜しい。

資料

◎ 1月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(22)	6	8	8
気温(℃)	$\frac{5.3 - 13.4}{10.1}$	$\frac{7.9 - 12.8}{9.4}$	$\frac{6.0 - 12.4}{9.1}$
水温(℃)	$\frac{12.3 - 16.6}{14.7}$	$\frac{12.5 - 15.0}{13.4}$	$\frac{12.0 - 15.5}{13.5}$
比重	$\frac{25.4 - 26.1}{25.9}$	$\frac{24.5 - 26.3}{25.7}$	$\frac{25.5 - 26.1}{25.9}$

但し { 気温は南水槽室
水温 } は No. 25 水槽で 10 時に測定
比重 }

正誤表

前号 38 頁 所載「来訪録」中

誤

山本広昭氏
京大動物科員外研究生

正

山本広明氏
京大理学部科学教育研究室
研修生

昭和31年2月3日 発行

(No. 41)

編集兼
発行人

内海富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会

和歌山縣・白浜町

瀬戸臨海実験所 内

(電話 白浜温泉 515)